



# 消防学校 ニュース



令和4年12月号

## 警防科(第17期)



## 警防小・中隊長養成カリキュラム

火災性状を理解し、消火技術と戦術に長け、安全管理と有効な部隊運用を実施することができる隊長の養成が目的となります。

様々な知識と技術を段階的に習得でき、それぞれの所属で、警防業務の中核となる職員育成に特化したカリキュラムの専科教育としました。



入校説明



ホットトレーニング



火災性状と中性帯確認



各種放水技術



シャッター破壊訓練



破壊後の開口部設定



専門業者からシャッター構造を学ぶ



応急救出訓練



アクリル BOX で加圧排煙を学ぶ



加圧排煙戦術訓練



加圧排煙戦術訓練



アメリカ海兵隊基地(キャンプ富士)で太平洋基地消防本部と訓練を実施



## 炎を使用しての訓練



火点室への屋内進入(キャンプ富士)



コンテナ型訓練装置内で火災性状を確認(キャンプ富士)



中級幹部科合同 火災想定総合訓練



市内同時多発火災想定



緊急事態にも素早く対応



消防本部による記者会見



両科において集大成となる訓練でした

**(担当教官から)**

近年、火災件数は全国的に減少傾向にあります。これは、裸火の使用が激減したこと、消防予防行政の努力によるもの、防犯カメラの普及で放火が減少したことなど原因は様々です。火災減少は消防として本望で喜ばしいことではありますが、現場経験が少ない消防吏員が増えているのも事実であり課題です。

火災件数は統計上減少しましたが、鎮火まで長時間を要す火災や、より危険を伴う火災は決して減少していません。また、エコロジー主体の建築様式の変化は火災性状の変化となり、消防の訓練、消火戦術、部隊運用も時代に即したのものへと変化が求められているのも事実です。さらに、地球規模の急激な気候変動により、過去に例を見ない規模の災害が多発するという過酷な環境変化が起こり始めています。

我々消防に求められる役割は、もはやファイアーファイターのみではなく総合的な安全管理です。風水害、地震、津波、火山、事件事故、テロ災害や国民保護までを任務とする、安全確保のコーディネーターでなくてはなりません。人命救助専門組織である消防は、オールラウンダーでなくてはなりません。火災に対して最後の砦であることを忘れてはいけません。そのため、今期警防科は過酷な火災現場で中核となる職員教育に特化したカリキュラムとしました。限られた教育時間の中で、段階的に知識と技術を習得できるスモールステップ方式とし、修了時には実力の向上を確実に認識できることを目標としています。

現場経験の浅い隊員は、危険な火災現場では厳格な指揮下に入らなくてはなりません。そのためには、現場指揮の専門教育を受け、訓練で洗練された指揮者の存在が必要不可欠です。小中隊長養成カリキュラムであるため、現場指揮に特化した座学と訓練を多数導入しました。また、指揮者養成は全国的にも急務な課題であることから、指揮教育・訓練方法も座学に取り入れました。

同時期入校の中級幹部科との合同火災想定訓練を両科の集大成訓練と位置づけ大規模な訓練を企画しました。市内同時多発火災想定で、実践を考慮してブラインド型訓練としました。消火戦術はもちろんですが、複数小隊と現場指揮本部、そして消防本部の情報共有能力が試されました。負荷想定として要救助者、事件性、隊員の受傷など様々な事象発生を入れましたが、両科学生は協力して訓練に臨んでいました。

警防科（第17期）を修了した学生が、今後も訓練を継続して積み重ね、事故なく活躍されることを期待しております。併せて、教育訓練を支援して下さった支援隊、講師の方々にお礼申し上げます。

教務課主査 田島 貴俊（富士市消防本部から派遣）

## 中級幹部科（第36期）

～ 各所属の未来は明るい！ ～

令和4年11月22日(火)から12月2日(金)までの8日間、中級幹部科を実施し、県内14消防本部(局)から18人が入校しました。

この中級幹部科は、中級幹部としての責任及び立場を正しく認識し、消防及び社会全般の動向を理解すること。また、迅速かつ的確な意思の決定に基づき、上司を補佐し、部下を指揮監督することにより、組織を管理できることを目的としています。



静岡ブルーレヴズ(株)代表取締役社長 山谷拓志



火災対応 指揮シミュレーション



ホットトレーニング



大規模災害 指揮シミュレーション



火災想定指揮連携訓練(警防科合同)



中級幹部科・警防科 合同訓練 記念写真

### (担当教官から)

コロナ禍の状況下、制約が多い学校生活となり、入校生には非常に御不便をおかけしましたが、無事に終了することができ安堵しています。この中級幹部科は、本校の教育訓練の中でも特に力を注いでいるものであり、入校生には非常に高い意識と緊張感をもって取り組んでいただけました。多岐にわたる講義及び各種訓練を通して、現在の消防行政が抱える課題の解決の一助となれば幸いです。

この中級幹部科で得た「知識」、「技術」、「気付き」、「重要性」、「魅力」を各所属で広めていただき、中級幹部科への入校希望者が増えることを期待しています。各所属の皆様、お待ちしております。

修了生皆様の益々の御活躍を祈念しています。

教務課主査 竹ノ内 創(駿東伊豆消防本部より派遣)

### 多種多様な訓練を実施しています。

4月から9月までの初任教育が終了し、10月から幹部教育等、多くの教育訓練が始まりました。消防職員だけでなく、消防団員や防災関係者への訓練も3月まで実施していく予定です。

#### ○消防職員への教育訓練

- ・実施済み…初級幹部科、中級幹部科、上級幹部科、救助科、警防科、火災調査科、水難救助科、女性吏員講習、潜水土試験対策講習
- ・実施予定…救急科、予防査察・危険物科、指令センター員講習、実践的大規模災害対応講習  
ホットトレーニング講習(12月～)

#### ○消防団員への教育訓練

- ・実施済み…初級幹部科、指揮幹部科現場指揮課程、指揮幹部科分団指揮課程、女性消防団員研修会
- ・実施予定…警防科、災害対策講習

# 第6回緊急消防援助隊全国合同訓練

令和4年11月12日（土）に、サテライト会場として、第6回緊急消防援助隊全国合同訓練が実施されました。この訓練は、南海トラフ地震により発生する都市部での災害を想定して、2種類の災害現場を設定し、詳細な訓練想定を明らかにしないシナリオ非開示型の訓練でした。

訓練には、7府県の緊急消防援助隊64隊、272人が参加しました。



前列の防災服着用者  
左から  
石野危機管理部長  
出野副知事  
望月主査（消防保安課）  
右後（活動服着用者）  
高倉消防学校長

## 1 複合建物火災対応訓練



### 2-1 都市型搜索救出訓練（瓦礫救助訓練）



## 2-2 都市型捜索救出訓練（土砂埋没救助訓練）



## 民間防火組織指導者消防学校体験入校



消防車乗車体験



放水訓練



濃煙避難訓練



ロープ結索訓練



搬送訓練



屋内消火栓放水訓練



救急実技

令和4年11月18日（金）、民間防火組織指導者47人が消防学校に体験入校しました。

初めての体験に驚きの連続でしたが、自分なりの気づきを学び、貴重な経験を得た方が多かったようです。今後、職場や家庭で、今回習得した技術と心構えを活かしてくれる事を期待します。

○民間防火組織指導者とは

住居からの火災発生を防止するため、家庭の女性及び少年を中心に防火意識の啓発のために育成された女性防火クラブ・少年消防クラブ・幼年消防クラブの指導者

## 教官紹介 [望月教官]



望月教官は、志太広域事務組合志太消防本部から教官として派遣され2年目となります。俯瞰的な見方と相手との会話の中から行動や気持ちを理解し、相手へ冷静に適切なアドバイスをする兄貴分的な教官です。

～高倉校長と望月教官との面談から～

校) 教官業務が2年目となりましたが、1年目と違う点はありますか。

望) 1年目は先輩教官をお手本に取り組んできました。2年目は先輩教官の良い点を取り入れて、自分なりの型をつくり対応しました。特に、訓練時に学生がしっかりと訓練の主旨等を理解できるように、学生への話し方に注意しました。分からない学生に対しては、指示するだけでなく、学生が質問しやすい環境を整え、また、学生の性格に合せ、円滑なコミュニケーションを心がけ会話を増やしました。

校) 1年目の教官に教えたことはありますか。

望) 教官は出身所属が異なるため、各々のルールを持っていますが、その良い点を融合し、これまでに受け継がれた消防学校の教育法・ルールをレベルアップさせ、1年目教官へ伝えたいと思っています。

校) プライベートで何か趣味はお持ちですか。

望) 学生時代は野球をしていましたが、今は、ゴルフ、ランニングを楽しんでいます。また、2人の子どもがサッカー部とバレー部所属なので、その応援や送迎で休日は忙しく過ごしています。

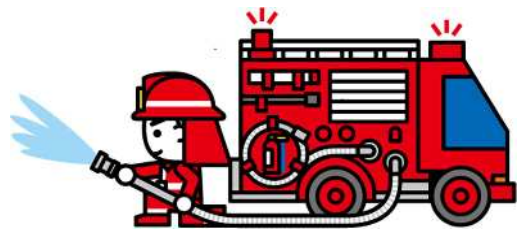
## 高倉校長から一言

望月教官は41歳という年齢の割にお若く見えますし、初任科生達との触れ合う様子を垣間見ていると、学生との距離感を感じさせない、親近感を抱かせるような雰囲気をお持ちです。竜之介さんという一見古風なお名前とのギャップも魅力のひとつだと思います。

望月教官は社会人野球をされていたそうです。サッカー経験者からは、野球のトップ選手は「投げて打って走って」の三拍子の運動神経を備えた「運動能力パーフェクト人間」と見えるところがあります。きっと、望月教官もそういった潜在能力をお持ちなのだと思います。

大リーグで活躍されている大谷選手などその頂に居られるわけで、同じ日本人として誇りに思えます。サッカーW杯カタール大会がアルゼンチン優勝で幕を閉じました。日本代表がドイツ、スペインという格上に勝利したことは、日本人でもやれるという証明をしてくれましたし、コンタクトスポーツにおいて、特にアジア人は欧米人には勝てないとの私の固定観念を覆してくれました。次世代、影響を受けた子供達が当然のように外国でプレーすることを望む時代になると思いますし、世界で活躍する強国のスーパープレイヤーがJリーグに加入することは、これまで以上に日常化されるのではないのでしょうか。個人的にはクロアチアのモドリッチ選手など、人物的にも技術的にも日本人にとって参考になる良い選手だと思いますが…。

スポーツを核とした交流促進による相互理解、経済発展など相乗効果も期待したいところです。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1  
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

